



とよしん

海外貿易投資ニュース



第67号
発行日:2016.12.15

無農薬・有機栽培の霧島製茶、米市場開拓を目指す - 北米進出の先行事例 - (米国)

サンフランシスコ市で11月6日に茶のイベント「インターナショナル・ティー・フェスティバル」が開かれ、こだわりの茶を求める消費者でにぎわった。初出展した老舗茶生産者の霧島製茶(鹿児島県霧島市)は10年以上前から無農薬・有機栽培を手掛けている。試飲した人々の反応も上々で、米国市場での販路拡大を目指している。

＜5回目の茶のイベントにバイヤーら2,000人が来場＞

カリフォルニア州サンフランシスコ市で11月6日に開かれたインターナショナル・ティー・フェスティバル。5回目の今回は国内外の茶農園や茶販売会社、レストランなど34社が出展、卸売りバイヤーらを含め約2,000人の来場者があり、入場規制がかかるほど混雑した。抹茶や緑茶を提供していたブースが特ににぎわい、チャイ(インド式ミルクティー)のブースにも人が集まっていた。イベントの主催者は「日本茶への強い関心が感じられる。同日に開催されたお茶のクラスでは、日本の緑茶をテーマにした伊藤園主催のクラスが最も参加者を集めた」と話していた。来場していた地元の台湾茶専門店のオーナーは「『スペシャルティー・ティー』の需要が増えている」と感じるという。「スペシャルティー・ティー」の明確な定義はないが、大量生産された安価な茶ではなく、多少値段が高くても、「原産地が分かり、生産者のストーリーが見える」あるいは「厳選された」茶葉を、「量り売り」で購入するような、こだわりのある消費者が増えているようだ。



インターナショナル・ティー・フェスティバル会場の様子(ジェットロ撮影)

＜霧島製茶の製品を米国の業者が輸入販売＞

今回初めて出展した霧島製茶は、100年以上の歴史を持つ茶の生産者だ。同社のブースは人気が高く、試飲した来場者からは「よその煎茶も飲んだが、ここが一番おいしかった」という声も聞かれ、多くの人が煎茶や抹茶の10グラム入りサンプルを購入していった。販売店や卸業者も同社の茶に興味を持ち、名刺を置いていく人が多かった。霧島製茶は1993年から無農薬・有機栽培を行っている。日本市場が厳しい中、国外へ目を向けようと、2016年1月にサンフランシスコ市で開かれた食の祭典「ファンシー・フード・ショー」に初出展した。その際、ジェットロの紹介でカリフォルニア州バーレー市の茶販売店ブルー・ウィロー・ティーを訪問したことがきっかけとなり、ブルー・ウィロー・ティーが霧島製茶の製品を輸入販売することが決まった。ブルー・ウィロー・ティーのオーナーのアリ・ロス氏は「(試飲した霧島製茶の茶が)すぐに気に入った。有機栽培の茶は味が落ちることもあるが、霧島製茶の茶は素晴らしい」と語った。今回のフェスティバルでは両社が一緒に出展した。



来場者でにぎわう霧島製茶のブース(ジェットロ撮影)

＜米国の茶市場の伸びに期待＞

ブルー・ウィロー・ティーはこれまでオンライン、卸専門の茶販売店だったが、10月16日に実店舗をオープンし、ティー・フェスティバルの前日、霧島製茶と共同イベントを行った。イベントは地元の人たちで埋まり、参加者は霧島製茶の煎茶、玉露、ほうじ茶など10種類の試飲をしたり、ロス氏が店内の茶室でたてた抹茶を和菓子とともに楽しんだりした。ワインのテイスティングのように1種類ずつ味わいながら感想を語り合う参加者もいた。霧島製茶の林修太郎専務は「(サンフランシスコ・ベイエリアには)味の分かる人が多く、米国の茶市場はこれから伸びると思う」と期待を寄せていた。霧島製茶は2016年1月、ドイツに現地企業と合弁で販売拠点となるキリシマ・ヨーロッパ(Kirishima Europe)を設立しており、順調に輸出量が増えているという。同社は今回、米国のバイヤーとの個別商談で菓子作りなどにも使える抹茶ペーストも紹介し、好感触を得た。林専務は「北米でも良いパートナーを見つけ、販路拡大を目指したい」と語った。



店内の茶室で抹茶をたてるアリ・ロス氏(ジェットロ撮影)



ブルー・ウィロー・ティーが実店舗で開いた共同イベントの様子(3点ともジェットロ撮影)

(出所:ジェットロ通商弘報2016年12月1日 1f71493903ee0e24 「無農薬・有機栽培の霧島製茶、米市場開拓を目指すー北米進出の先行事例ー(米国)」)

最低賃金を2017年1月に引き上げ、上昇率は平均7.3%(ベトナム)

ベトナム政府は11月14日、2017年の最低賃金に関する政令153号(153/2016/ND-CP)を公布した。改定後の月額最低賃金は、ハノイ市、ハイフォン市、ホーチミン市などの地域1で375万ドン(約1万8,750円、1ドン=約0.0049円)に引き上げられる(ドル換算では約167ドル)。上昇率の全地域平均は7.3%となる。

＜上昇率は過去10年間で最小、伸びは一服か＞

政令153号は2017年1月1日から施行される。前回の最低賃金引き上げは2016年1月1日に行われた。ベトナムの最低賃金は1～4の地域別に設定されている。今回の改定により、ハノイ市、ハイフォン市、ホーチミン市を含む地域1の最低賃金は375万ドン(7.1%増)、地域2(ダナン市、バクニン省など)が332万ドン(7.1%増)、地域3(ハナム省など)が290万ドン(7.4%増)、地域4が258万ドン(7.5%増)となる(表1参照)。2017年の最低賃金改定に当たっては、賃金評議会が8月に諮問案を国会に提出しており、今回の政令153号の月額最低賃金は同諮問案に沿ったかたちとなった。2017年の月額最低賃金の平均上昇率は7.3%と過去10年間で最小となり、ここ数年続いてきた2桁以上の伸びからは一服した感がある。他方、2016年1～10月のインフレ率は前年同期比2.3%で、2015年における0.7%と比べ上昇傾向にあるものの、2017年の最低賃金の平均上昇率もインフレ率を大きく上回る状況にあることに変わりはない。

表1 月額最低賃金の比較 (単位:1,000ドン、%)

	2016年(現行)	2017年(予定)	上昇率
地域1	3,500	3,750	7.1
地域2	3,100	3,320	7.1
地域3	2,700	2,900	7.4
地域4	2,400	2,580	7.5

(出所)2016年は政令122/2015/ND-CP、2017年は政令153/2016/ND-CP

＜将来の競争力を疑問視する意見も＞

ベトナムに進出する日系企業間でも、輸出加工型製造業が多い北部と、内需向け製造業の比率が一定程度を占める南部とでは、上昇率に対する捉え方は異なる。北部にある輸出加工型の進出日系企業関係者からは2017年の最低賃金に関して、「感覚的にはまだ高過ぎる」「タイなど他国と比べて競争力が低下しており先行きが心配」といった声が上がっている一方、南部の進出日系企業の間では、給与水準の上昇に伴う購買力向上を期待する声もある。実際、ジェトロの調査に基づいて比較すると、法定最低賃金はバンコクの方がハノイより25%高いが、事業主の社会保険負担率を勘案するとその差は7%にまで縮小する(表2参照)。今後の賃金上昇幅や、タイとベトナム両国間の生産性、現地調達状況などを比較すると、特に両国に拠点を持つ企業からは、将来的なベトナム拠点の競争力を疑問視する意見も聞かれる。また、縫製業など他国との厳しい輸出競争にさらされている地場の業界団体からも、急速な賃金上昇を懸念するコメントが出されている。例えば、ベトナム繊維協会(VITAS)は2016年7月に、2017年の最低賃金上昇を見送り2～3年ごとの引き上げとするよう、政府に対し提言していた。豊富な労働力を生かした輸出産業の競争力維持と、国内労働者の生活水準向上という2つの課題に対処するため、最低賃金の改定に当たって政府は今後、ますます難しい判断を迫られることが予想される。

表2 タイとの賃金水準比較 (単位:ドル)

	月額法定最低賃金	社会保険負担額	合計
バンコク(A)	199	10(5%)	209
ハノイ(B)	160	35(22%)	195
A/B	1.25	-	1.07

(注)日額の賃金を1ヵ月24勤務日で計算。かっこ内は社会保険負担率。

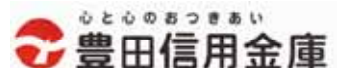
(出所)ジェトロ調査「第26回アジア・オセアニア主要都市・地域の投資関連コスト比較(2016年6月)」

(出所:ジェトロ通商弘報2016年11月25日 93637ae481bad086 「最低賃金を2017年1月に引き上げ、上昇率は平均7.3%(ベトナム)」)

！！外貨両替は弊庫へ 米ドルは全店で、17通貨は本店で取扱中！！

次のセミナー等をご案内させていただきました。

セミナー等名称	開催地	主催者
食品産業の海外展開支援研修会	名古屋	(一財)食品産業センター
海外投資セミナー～わが国製造業企業の海外事業展開～	名古屋	(株)国際協力銀行(JBIC)
アジア7カ国投資アドバイザーセミナー	名古屋	(独)国際協力機構(JICA)
食品・外食産業海外展開・進出促進セミナー	名古屋	(株)アール・ピー・アイ
メキシコビジネスセミナー&個別商談会	名古屋	ジェトロ



国際業務部

〒471-8601
愛知県豊田市元城町1-48

電話 0565-36-1381

FAX 0565-36-1213

URL <http://www.toyoshin.co.jp>